

エピソードで学ぶ!



公民館に避難者が集まり、全員が横になるスペースもないほどに!

下富吉自治会長(当時)
森 國彦さん(富吉)



川から水があふれ始めた9月5日、避難勧告の連絡があると、私は各班の班長に連絡を取り、公民館に向かいました。公民館に避難してきたのは約200人。畳の間だけでは足りず、板敷きにゴザを敷いて対応しましたが、全員が横になれるスペースはありませんでした。浸水で区内が分断され避難者が数か所に分散していたため、避難状況の把握に苦慮しましたが、情報収集には携帯電話が非常に有効でした。

水が引いた後、私は地域と災害対策本部の連絡役として奮闘しました。このような水害は過去に経験したことがなかったため、時に本部の職員と口論になったこともありましたね。

エピソードで学ぶ!



経験や知識はなかったのですが、地域団結して災害支援に努めました!

北地区社会福祉協議会 副会長(当時)
菊池 佳代子さん(瓜生野)



当時は、災害支援体制が今のように整っておらず、被災者支援に悪戦苦闘した記憶があります。被災者の受け付けをはじめ、個別に必要な物資を聞いて回り、食料や下着などを配りました。被災後は、短期間に多くのボランティア支援に来ていただいたため、どの家庭に支援に行っていたか、援助先の決定に戸惑うこともありました。しかし、日頃の付き合いから、支援が必要な家庭を把握しており、遠慮して支援要請を行わないご家庭などへの支援もできました。現在のような体制ではなかったものの、地区社会福祉協議会が中心となり、地域の団結力を生かして、被災者支援に努めました。

エピソードで学ぶ!



自分の経験を基準に判断してはいけません。

宮崎市消防団 高岡分団長
鈴木 浩二さん(高岡町)



台風の前から降り続いた大雨で、大淀川は増水し、周辺の地盤も緩んでいる状態でした。台風が来た1日目の夜中に避難勧告が出され、私は消防車で地域の危険箇所や水門の巡回、浸水地域の避難誘導活動などを夜通し行いました。

朝になると二階まで水没した住宅もあり、ボートで救助された避難者もいました。救助された方は口々に「ここまで水量が多くなるとは思わなかった」と話していました。災害に対して過信は禁物です。災害は過去の経験や想定を大きく上回ることがあるので、避難勧告などの情報に注意して早めに避難しましょう。

特集2

風水害対策 していますか?

①10年前の水害に学ぶ

平成17年9月、未曾有の被害をもたらした台風14号。その災害から何を学び、どう生かしていくべきなのか。災害に強いまちを目指すため、当時のエピソードやデータ、写真から被害状況や対処法を学び、これからどうすべきか考えます。

[問] 危機管理課 ☎21-1730

本市は、台風14号による甚大な被害を受け、これまでに地域防災計画を根本的に見直し、防災体制の強化や関係機関との連携を図ってきました。今後も、地域住民の皆さんと一緒に災害に強いまちづくりに取り組んでいきます。



危機管理課
主任 吉田 忠史

写真で知る!



浸水被害は 広範囲に

大淀川の水位が上昇し、区内を流れる川の水が堤防を越えた地域もありました。



ボートでの 救助の様子

ボートの代わりに、たらいや板を組み合わせたイカダなどを使った地域もありました。

データで分かる!

被害総額
約**215**億円

農林水産業や商工業、公共施設などの被害

住宅被害数
3,937世帯

床上浸水は3,053世帯で、内916件は全壊相当

避難者数(旧宮崎市地域)
10,059人

台風が過ぎた後の避難者を含めると11,915人

総降水量
607mm

大淀川上流域の記録的な豪雨もあり下流域の増水は長時間に